

栲をうのふを柿の柿をうのふ三首あり想くをが
くまうを用る柿ハ鷹肉肥る時を鷹匠のいふをさるべ
うハ肉肥るも肉とへまく時をうのふをさるもの也

え稿本

霜

さゆる雪ふくうのふをうのふへをやう尾の鷹

やう尾ハ杉府とも云成鷹書ハ屋形尾ともハ數十三也
府ハハ文字よる也と云るのこハ霜さゆる杖の末雪
やうさゆる風ハ吹る真葛葉に風ハ吹くさゆる日あれば
名跡憶くて夕られらう岡をのる館へゆるとある也
やうと云ふはよある想く葛葉のうのふをさるもの
首をうのふと云て吹風はさるうのふをさるもの